

特別支援教育

実態把握は「自分の目での確認」重視

横浜市立桜岡小学校の個別支援学級(特別支援学級)は本年度、知的障害個別支援学級2クラス、自閉症・情緒障害個別支援学級2クラスの4クラス編制となっている。

本多茂子・非常勤講師は、個別支援学級の知的障害支援学級の担任を務めている。横浜市立小学校の教諭として長年勤務し、個別支援学級の担任も15年間にわたって担当してきた。定年退職後も再任用され、非常勤講師として特別支援教育に携わり続けている大ベテランである。

自立活動

(32)

横浜市立桜岡小学校個別支援学級の取り組み④

桜岡小には昨年9月から勤務している。同小の特別支援学級では、教育活動全体を通して、自立活動を年間計画の中に位置付け、指導を行っている。

自立活動を行う上で大切にしていることについて、本多講師は「子ども一人一人の実態を明らかにすること。つまり、障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活面での長所や良さ、課題などの情報を収集することが必要である。また、収集した情報の整理、課題の抽出、課題同士の関連の整理などを行い、児童一人一人の中心的な課題の設定をする。さらに、個別教育支援計画、個別指導計画を作成して、自立活動や教育活動全体を通して指導することが大切である」と話している。

実態を把握するためには、就学前の幼稚園、保育園からの情報、前担任からの引き継ぎ、保護者からのアセスメントはもちろん、何よりも「教育活動全ての場面で児童一人一人の姿を自分の目でしっかり確認すること」を大事にしている。

具体的には「どんな場面でも、どのような『困っていると感じること』を持っているのか」「どのような支援をすることで安心感を持って活動に取り組んでいるのか」「児童自ら積極的に取り組んでいる活動はどんな活動なのか」「環境の変化や集団への参加の状況はどのようなか」などを丁寧に観察・記録し、一人一人の課題を見いだしている。

その上で「自ら進んで活動している児童には、時折声を掛けながら見守る」「気持ちの不安定な児童には、児童の気持ちに寄り添いながら活動を見守る」「コミュニケーションを苦手とする児童には、教師との会話の場面を多く設け、児童の気持ちを大切にしながら活動を選択、決定できるようにする」「環境や集団を苦手とする児童には事前に活動の見通しが持てるようにする」など児童一人一人の実態に対応し、「全体でのような活動を取り入れ、指導していくことが一人一人の課題を解決できることにつながるのか」を常に考えながら題材を設定し、自立活動を進めることを重要なポイントとして挙げる。

8日の知的障害個別支援学級では、「手先の巧緻性や持続性を高める活動」を指導するクラスと、「心理的な安定」「人間関係の構築」「コミュニケーション」など多様な指導課題を設定したクラスを設定して自立活動を実施した。

「エシカル消費」で地域課題解決へ

徳島県立阿南支援学校

放置竹林を紙に再生 災害時用のトイレ用品にも

NPOが協力、伐採方法など指導

地域課題の解決のために環境などに配慮した消費行動を目指す「エシカル消費」。高等部の教育活動に取り入れられている。高等部には普通科、生活科学科、産業工芸科がある。同校は災害時の避難所に指定されている。

放置竹林の竹を再利用する活動には平成30年度から取り組んできた。地域の課題解決に向けた持続可能な循環型社会づくりに貢献しているとして、本年度の消費者支援功労者表彰で内閣総理大臣賞を受賞した。

同校で竹林を活用した活動を進めてきた江川献人教諭は「竹から原料を取るためには年度を通して、根気よく作業する必要がある」と苦労を振り返る。

きっかけは、徳島県教委が放置竹林を教育活動に活用しようと、エシカル消費に関する事業を開始したこ

とだった。特別支援学校な環境などに配慮した消費行動を対象とした事業の一環で、子どもたちの能力開発などを目的として、特別支援学校が環境保全の核となる「エコステーション化」が決まった。

同校の生徒は学校の近くの竹林に入って、竹を切り出した。再利用できるのは水分を含んだ緑色の青竹。胸の高さの節の上から水平にのこぎりで切断した。竹水の採取と成育の抑制を狙った。

採集した竹の活用方法は学科ごとさまざま。普通科の生徒は令和2年度から2年間かけて、竹を紙に変えた。持ち帰った竹は1年間水に漬け込んだ。その後、軟らかくなった繊維を手でほぐし、木づちでたたいてさらに軟らかくするなどの工程を経て紙にした。

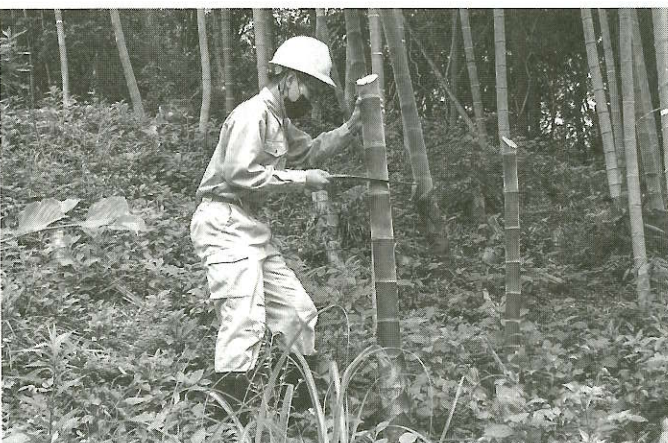
同校の卒業証書の用紙に

した他、産業工芸科の生徒たちによる間仕切りの制作に生かした。木材加工の授業で実施した。間伐材と竹が、使用後に竹の粉末を振り掛ければ、排せつ物を分解・防臭する効果が得られる。

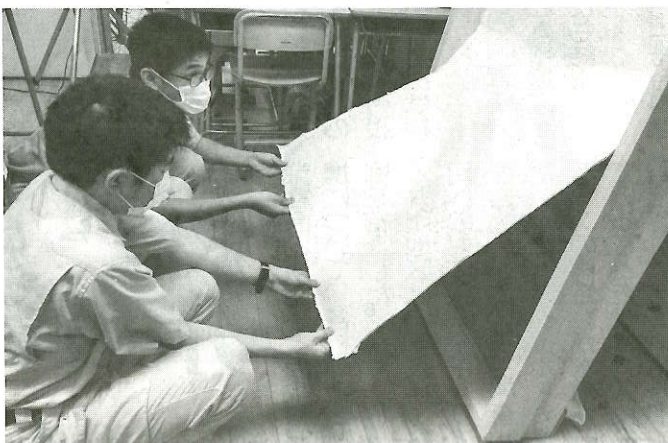
これまでの取り組みは、元年度から2年

する「エシカル消費」の活用を期待

消費者支援功労者表彰で受賞



放置竹林で竹を伐採する生徒



竹を原料とした紙を型から剥がす生徒

同校の取り組みは、竹林の活動に取り組み「竹林再生会議」活用方法や、竹などを指導した。からは「教員がや安全管理が外部人材の存在があった」との声。本年度は、長期を迎えた若出した水を使用んを作る。「竹」は肌の健康維持るビタミンB群であり、美容製品での活用を期待

アプリで広げる 子どもの学び ⑭ デイジー子どもゆめ文庫

マルチメディアアプリ教材をダウンロードして活用しようか。タブレットPCの中で動くデジタルの教科書です(文科省は「音声教材」という用語を使っています)。教科書の内容を音声で読み上げたり、文字の色を変えて見やすくしたりすることができるとして、読むことが苦手な子どもが教科書にアクセスするための方法として活用が進んでいます。

マルチメディアアプリ教材書以外にも、各種の音声教材が作られており(詳しくは、「音声教材 文部科学省」で検索)、近年は教科書会社からデジタル教科書が出てきています。

このように教科書のデジタル化は進んでいますが、一般の本はどうでしょうか。子どもたちは読みたい本を自分の読みやすい形式で読むことができているでしょうか。日本では令和元年6月に「読書パリアフリー法」が成立・施行されました。障害の有無にかかわらず全ての国民が読書す

マイページでできること

ダウンロードする ChattyBooks オンラインサービスにおくる

いまより

タイトル:	ごんご
ひらがなタイトル:	ごんごつね
ローマ字タイトル:	GONGITSUNE
著者:	いぬいしん 新美南吉
出版社:	福音堂出版
発行日:	2020-10-08
ISBN-13:	XXX
ルビ:	ゴングツネ
ページ数:	6ページ